

# 国際ボランティア学会

## ニュースレター NO.7

2003年9月10日

国際ボランティア学会事務局

〒565-0871 吹田市山田丘1-2

大阪大学人間科学部ボランティア人間科学講座内

Tel & Fax : 06-6879-8064

URL:<http://volunteer.hus.osaka-u.ac.jp/www/society/>

### 〈内容〉

1. 第5回大会のお知らせ
2. 第4回隅谷三喜男賞への自薦・他薦のお願い
3. 『ボランティア学研究』について
4. 隅谷三喜男会長ご逝去のお知らせ
5. 会費納入のお願い
6. 事務局より

国際ボランティア学会常任理事 大江 浩（横浜 YMCA 国際・地域事業本部長）

私は、8月23日からヨルダン・パレスチナへ行く予定だった。現地 YMCA の難民救済や社会事業を踏まえ、今後日本の YMCA がその復興支援に対してどのように協力できるかの視察だった。しかし、その調査ミッションは実現せず、延期となった。直前のイスラエル・パレスチナでの自爆テロとその軍事報復の決定、バグダッドでの国連事務所へのテロなど、情勢悪化のため、現地入りを断念せざるを得なかった。誠に残念極まりない。言うまでもなく、私たちは9.11によって、地球規模の「パンドラの箱」を開けた。憎悪と暴力の応酬による平和への脅威・危機。平和の危機、とは即ち罪なき無垢の人々の「命の危機」。無数の子どもたちが未来を奪い取られ、意味もなく死を迎える。それも惨状の只中で。私たちは、試されている。このまま破壊と殺戮を際限なく続けるのか、否かを。

私は、昨年今頃、9.11をはさみ約10日間ペシャワール（パキスタン）とカブール・ジャラバード（アフガニスタン）を訪れた。アフガニスタン難民の子どもたちを支援するプロジェクトのための調査であった。私たちが9月5日にカブール入りしたその日に、テロにより約30名（負傷者約170名）が亡くなった。その間、国際社会の縮図、そしてその虚像と実像をも垣間見た。1年前のアフガニスタンは、イラク戦争・パレスチナ紛争再発前で、その復興支援に国際社会の耳目が集まった。しかし今は、「世界最大の忘れ去られた難民の国」（緒方貞子氏）に戻りつつある。より大規模な「新しい」災害や紛争が、メディアを支配し、それまでの災害や紛争を「過去」に追いやる現実。

私と海外の災害との関わりは、1999年8月17日のトルコ大地震に端を発する。1995年1月17日の阪神・淡路大地震（当時神戸 YMCA）ももちろん大きな転機となった。トルコ大地震以降、各国の災害復興支援の現場に奔走するきっかけは、当学会設立の牽引車となった故草地賢一

氏だった。そして今は、横浜 YMCA に移り、ジャパンプラットフォームにも関わること（NGO ユニット監事として）になり、これらの国際社会の諸問題と SOS に関わる度合いが深まった。

さて、これらの国際社会の激変にあって、注目すべきは NGO の働き、そして様々な機関の協働である。かつての仲間、神戸の CODE（海外援助市民センター：阪神・淡路大震災以降発足した市民と NGO によるネットワーク支援：NGOs KOBE の「現在形」）、そしてジャパンプラットフォーム。東西の組織双方に少なからず関係ある者として感じるのは、その主体が NGO であり、諸資源の連携こそが重要な鍵を握る、ということだ。国境を超える市民と NGO。ボランティアリズムとプロフェッショナルリズムの葛藤。もちろん多くの課題や困難に直面する。既存の組織や枠組みでは解決しきれないことを認識しつつ、私たちに何ができるか真摯に自問自答しなければならない。私たちは、岐路に立っている。まだまだ発展途上だ。グローバルかつボーダレスな課題に取り組むことを求められている私たちの行動とコミットメントは、より洗練された戦略をも要求する。だからこそ今一度その在り様を問い直したい。私たちは何を求められ、そのことどのように答えていくのか、を。

東京 YMCA 設立 100 周年 (1980 年) の際に生み出されたスローガン: **Think Globally. Act Locally** (世界を見つめ、地域に生きる) の言葉は、近年大衆化した。しかし見直しが必要だ、とつくづく思う。従来の意味に加え、「地域を見つめ、世界に生きる」、「地域を見つめ、地域に生きる」、「世界を見つめ、世界に生きる」など、多元的な捉え方によって。私たちの行動範囲は広がった。しかし、私たちは、同時に「ボランティア」を深め、根付かせていく必要もある。国際協力や開発支援の働きのみならず、コミュニティ (共同体) における福祉・教育・社会・環境などの多様なボランティアの働きの重要性だ。これは「震災」からの貴重な教訓でもある。今一度私たちのミッションをあらゆる角度から検証したい。市民・ボランティア・NGO が社会と世界を変えうる重要な資源として、位置づけられるべき時がようやく来た。ボランティアとミッションの実践・実証、そしてその理論化体系化において本学会が果たす役割の大きさ、重さを痛感する。また本学会が、そのことに留まらず、種々のアドボカシー活動、価値の形成、文化の創造にも寄与していくことを願ってやまない。そのためには、何故「国際」、何故「ボランティア」なのか、という根源的な問いと向き合い続けなければならないだろう。その「何故？」に対する答えは、単に現状分析のみならず、歴史的な検証と洞察からも導かれねばならない。

昨年、日本の「国際とボランティア」における先駆者であり、偉大なる指導者であった隅谷三喜男先生 (本学会会長) が激動の時代を生き、天に召された。その遺志を受け継ぐことができるか、新たな歴史を刻んでいけるか。否応なく松明が私たちにバトンタッチされた、そのことを肝に銘じたい。

---

## 1. 第5回大会のお知らせ

### (1) 大会テーマ

「現在の国際社会とボランティア」

### (2) 開催要領について

【日時】2003年11月8日（土）および9日（日）

【会場】明治学院大学横浜校舎

〒244-8539 横浜市戸塚区上倉田町1518番地

【大会実行委員会】

委員長：川俣優（明治学院大学）

委員：新堀邦司※（東京YMCA）・中村安秀※（大阪大学大学院）・大江浩※  
（横浜YMCA）・永野茂洋・西村万里子・金井創・谷津倉智子（以上、明治学院大学）※は常任理事

【大会事務局】芳賀昭雄（東京YMCA）・関嘉寛（大阪大学大学院）

【大会スケジュール】

- ・自由研究発表（別項参照）
- ・隅谷三喜男賞受賞式（賞については本ニュースレターをご参考ください）
- ・特別講演：「現在の国際社会とボランティア－日本はどこへ行くのかー」  
塩月賢太郎氏（元明治学院大学国際学部長）

- ・シンポジウム：「国際緊急支援とボランティア」

国益を担う外務省、市民社会から生まれたNGO/NPO、日本の経済発展を担ってきた日本経団連など、背景の異なる団体や機関が思いを共有しながら発展してきたジャンププラットフォームの活動を振り返り、日本の国際緊急支援や社会貢献のあり方を考える。

司会：黒川千万喜氏（ジャンププラットフォーム事務局）

中村安秀氏（大阪大学大学院人間科学研究科）

シンポジスト：大西健丞氏（ピースウィンズジャパン）

城所卓雄氏（外務省・経済協力局民間援助支援室）

長沢恵美子氏（日本経団連・社会本部）

原田勝広氏（日本経済新聞社）

【タイムテーブル】

11月8日（土）

9:30～ 受付開始

10:00～12:30 自由研究発表

12:45～13:45 理事会・編集委員会

14:00～14:15 隅谷三喜男賞授賞式

14:20～15:30 特別講演

15:40～17:40 シンポジウム

18:00～19:30 懇親会

11月9日（日）

9:30～ 受付開始

10:00～12:20 自由研究発表

12:30～13:00 総会

### 【参加費】

大会参加費（含む「発表要旨集録」代）：正会員：3,000円／学生会員：1,500円  
法人会員：6,000円／臨時会員：4,000円  
学生臨時会員：1,500円

懇親会費：正会員・学生会員とも4,000円

### 【参加申込手続き】

別紙の「参加・発表申込書」に必要な事項を記入の上（不参加の場合も）、郵送またはファックスにて事務局までご返送下さい（**期限 2003年9月29日**）。

## (3) 自由研究発表について

### 【申込要領】

「参加・発表申込書」に必要な事項を記入の上、**2003年9月29日（月）**〔**必着**〕までに、郵送またはファックスにて申し込み下さい。

### 【発表時間】

個人発表：発表時間20分、質疑5分

共同発表：発表時間40分、質疑10分

各セッションに全体討論の時間を30分程度設定します。

### 【発表要旨集録】

自由研究発表希望の方には、後日「発表要旨の執筆要項」をお送りします。この要項を参照の上、**2003年10月15日（水）**〔**必着**〕にて学会事務局に郵送して下さい。

なお、「発表要旨集録」はダイレクト印刷にて作成いたしますので、必ず所定の様式で作成して下さい。

### 【発表にあたっての留意事項】

- 1) 一度申込まれた発表題目の変更はできません。
- 2) 発表部会につきましては、下記のような部会を検討しておりますので、第1希望と第2希望を記入して下さい。最終的な調整は事務局にお任せいただきます。

- ①理論・思想・歴史
- ②ボランティア政策・行政
- ③福祉・介護
- ④学校教育・生涯教育・青少年活動
- ⑤国際協力
- ⑥災害救援
- ⑦まちづくり
- ⑧企業とボランティア
- ⑨その他

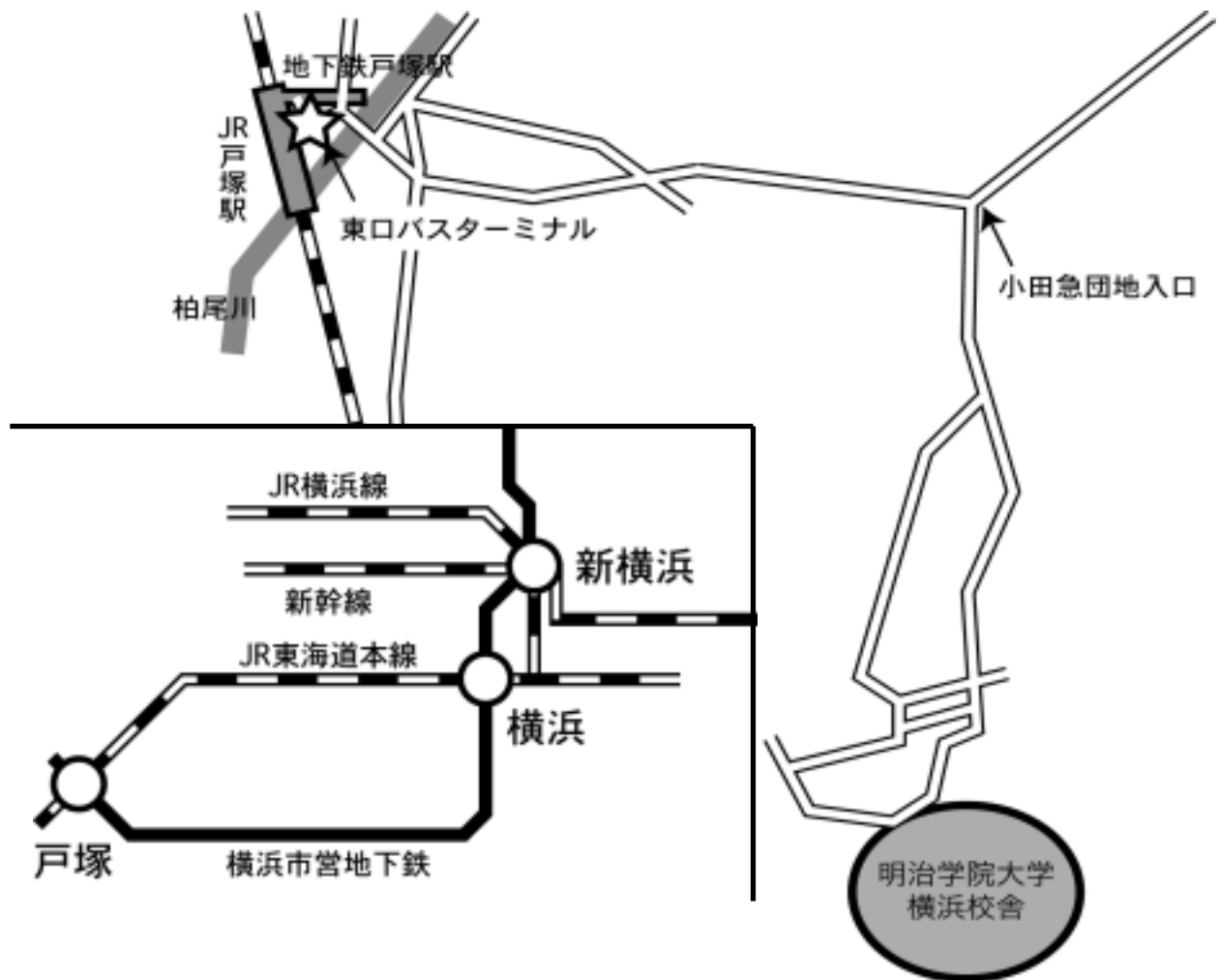
- 3) 共同発表の場合は、共同発表者の氏名と所属を記入し、当日の発表者に○印をつけて下さい。なお、共同発表者全員が学会員であることが求められておりますので、会員以外の方がおられる場合には、学会事務局宛てに早急に入会の手続きをお願いいたします。

#### (4) 懇親会について

11月8日(土)18時より、大会会場(明治学院大学横浜校舎)にて開催いたします。  
準備の関係上、参加希望は事前に承っております。なお、懇親会参加費は当日、受付にてお支払いください。

#### (5) 大会会場への交通

- ・JR 東海道線・横須賀線・横浜市営地下鉄線「戸塚駅」東口下車  
→東口バスターミナル8番乗り場から「明治学院大学循環」の江ノ電バスで、「明治学院大学前」下車(乗車約7分)
  - ・「戸塚駅」より徒歩、約30分
  - ・タクシーも利用可
- ※「戸塚駅」は横浜駅からJR 東海道本線で10分です。



#### (6) 宿泊等

学会としてお世話できませんので各自お申し込みください。

#### (7) 大会に関する問い合わせ先

国際ボランティア学会事務局

・東京

〒135-0016 東京都江東区東陽 2-2-20  
東京 YMCA 総務部内（担当：芳賀）  
TEL: 03-3615-5562/FAX: 03-3615-5608

・大阪

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-2  
大阪大学人間科学部ボランティア人間科学講座内（担当：関・山本）  
TEL&FAX: 06-6879-8064/E-mail: seki@hus.osaka-u.ac.jp

・大会ポスター

URL:<http://volunteer.hus.osaka-u.ac.jp/www/society/5thcongress/information.htm>

## 2. 第4回隅谷三喜男賞への自薦・他薦のお願い

今年度も国際ボランティア学会では、隅谷三喜男賞を、以下の選考規定により、選考することになりました。みなさまからの自薦・他薦の応募をお待ちしております。（期日は9月末日）

### 【参考】 隅谷三喜男賞選考規定

#### 1. 名称

本賞は、国際ボランティア学会隅谷三喜男賞と称する。

#### 2. 主旨

本賞は、初代会長隅谷三喜男博士を記念し、ボランティア学研究およびボランティア活動の発展を期して、研究および実践を奨励することを目的とする。受賞者には賞状および記念品を授与する。

#### 3. 対象者

毎年度原則、2名（個人あるいは団体）

#### 4. 選考対象

- (1)著作・論文（学会誌掲載論文、およびボランティア学に関する著書・論文）
- (2)実践

どちらも、賞の対象となる論文・活動記録を、自薦あるいは他薦により、本学会隅谷三喜男賞選考委員会あてに、本賞に応募する旨を明記して、申し出た者。

#### 5. 選考委員会

本学会理事の互選による5名以内で構成する。選考委員の任期は3年とし、再任を妨げない。選考委員長は選考委員の互選とする。選考委員会は必要に応じて会員の協力を求めることができる。

#### 6. 選考手順

選考委員会は選考を当該年の総会以前におこない、理事会の決議を経て、大会および総会において発表する。

#### 附則

本規定は常任理事会の議を経て2002年6月7日より有効とする。

## 3. 『ボランティア学研究』について

現在、『ボランティア学研究』第4号の編集を行っております。発行は、10月31日を予定しております。

また、引き続き、論文・フィールドレポートの投稿を募集しております。なお、執筆規定等につきましては、『ボランティア学研究』あるいは下記のホームページをご覧になれるか、事務局までTel、FaxまたはE-mailにてご請求ください。またご不明な点なども、同様に事務局までご連絡ください。

#### 4. 隅谷三喜男会長ご逝去のお知らせ



国際ボランティア学会会長隅谷三喜男先生が、2003年2月22日（土）にご逝去されました。享年86歳でした。

先生は1941年に東京帝国大学経済学部を卒業後、旧満州の昭和製鋼所に勤務された後、1946年に東京大学経済学部助手に採用され、講師、助教授を経て1955年に教授になられ、1977年に退官されました。退官後も信州大学教授、東京女子大学学長、社会保障制度審議会会長、日本学士院第一部部長などを歴任されました。

先生のご業績は、専門の労働問題にとどまらず、社会保障、産業論、キリスト教を中心とした社会思想史、アジア経済論など極めて多方面に及んでいます。主な著作としては、『日本賃労働史論』、『労働経済論』、『新しい社会保障の理論を求めて』、『日本石炭産業分析』、『日本社会思想の座標軸』、『韓国の経済』などがあります。

隅谷先生は、1999年の国際ボランティア学会設立総会にて、会長として選ばれ、以後、国際ボランティア学会の設立趣旨を広めることにご尽力されました。1999年の設立総会での記念講演「21世紀の国際社会とボランティア」、第2回大会での記念講演「21世紀に向けてー国際協力とボランティア」では、国際的な視野に立ったボランティアのあり方についてお話しいただきました。

また、2000年の第2回大会からは国際ボランティア学会賞として「隅谷三喜男賞」が設立されました。この賞は、先生の数々のご功績を広め、また今後のボランティアの発展をすすめるために、実践分野と研究分野からそれぞれめざましい活躍をした個人・団体に贈られてきました。第1回の隅谷三喜男賞授賞式にはご同席いただきました。

先生の多方面にご活躍されたご生涯を偲び、謹んでご冥福をお祈りいたします。

#### 5. 会費の支払いのお願い

2003年度分会費の納入をお願いいたします。今年度の会費は以下の通りです。同封の振り込み用紙をご利用ください。

〔年会費〕

一般会員：5,000円／学生会員：2,000円／法人会員：10,000円

なお、今年度新規に入会された方は、入会金も会費とあわせて納入してください。

〔入会金〕

一般会員：5,000円／学生会員：2,000円／法人会員：10,000円

郵便局・振込口座番号:00980-1-140210  
加入者名:国際ボランティア学会

#### 6. 事務局からのお知らせ

ボランティアや市民活動などに関する情報やエッセイなどがありましたら、お手数ですが学会事務局までお送りください。あわせて、紙面へのご意見・ご希望などもお待ちしております。

また、住所・所属等を変更された場合は、速やかに事務局までご一報くださいますよう、お願い申し上げます。

[事務局連絡先]

・東京

〒135-0016 東京都江東区東陽 2-2-20

東京 YMCA 本部事務局内 (担当：芳賀)

TEL: 03-3615-5563 / FAX: 03-3615-5608

※東京事務局の連絡先が変わりましたのでご注意ください！

・大阪

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-2

大阪大学人間科学部ボランティア人間科学講座内 (担当：関・山本)

TEL&FAX: 06-6879-8064 / E-mail: seki@hus.osaka-u.ac.jp

・学会ホームページ

<http://volunteer.hus.osaka-u.ac.jp/www/society/5thcongress/5thindex.html>